

2022 年度事業報告及び附属明細書

公益財団法人基督教イースト・エイジャ・ミッション

2022年度は、20年から続くコロナ禍による事業活動の制限や影響を受けたが、研究研修事業、留学生寄宿舍事業、児童発達支援事業、保育園事業をのどの事業においても、徐々に通常の活動を再開も試みた。

1、 留学生寄宿舍事業

外国人留学生に対し低廉で良質な宿舍「山上国際学寮」を提供し、その就学・研究活動を支援するとともに、健全な人間形成と日本文化の良き理解者の育成に寄与した。約20 世帯と小規模ではあるが、青年期における人間形成の場として、寮長及びカウンセラーが常駐して毎月寮生会を実施して各自の研究生活のサポートを行った。2022年度も昨年度に続き、新規入寮生の入国制限が続き、また現入寮生たちも在宅での研究活動を強いられたが、社会状況を見据えながら寮生間の交流を図るプログラムを再開できた。

2、 障害福祉サービス事業

児童発達支援「富坂子どもの家」、認可保育所「富坂まきば保育園」の各事業を通じて、児童福祉法に基づくサービスを通じ、地域社会における養育への支援を行い、多様な養育ニーズを抱える家族の基盤強化に寄与した。「富坂子どもの家」では、就学前の心身に障害、あるいは発達に遅れのある児童に対し、相談と個別・集団的に必要な支援、訓練を行い、個々の児童の発育・発達を促した。また、集団の中での経験を豊かにすることで、円滑な社会生活につなげるサービスを提供した。さらには発達障害児の全人的な成長を支援する機関として、対象児童へのサービス提供に留まらず、保護者の養育相談や、児童ディサービスに従事する専門家の育成のためボランティア等受け入れた。また早期の段階で専門的な保育指導を行い、また関係する教育・福祉機関と連携した。

2022年度も、コロナ禍による保育活動への制限下にあったが、徐々に対面式の保護者プログラムや行事の再開を試みた。

3、 NPO及び市民活動支援事業

NPO 法人及び市民団体による、人権・平和・教育・国際理解に関する市民活動を積極的に支援するために、それら団体やグループの活動拠点を提供した。これは人権、平和、教育に関する社会的な課題に取り組むNPO 法人、市民団体の活動を支援することによって、結果としてこれらの社会的課題が市民活動を通じて解決され、地域社会自体の自己解決能力が増すことになり、結果としてこのことが地域社会の健全な運営の確保に資することにつながると考えたからである。当財団では、文京区小石川2丁目に所有する建物内の一定部分を、NPO 法人や市民団体・NGO に対してのみ、市価の半額程度の家賃で事務所スペースを提供した。

4、 研究・研修事業

国内外の社会における人間の尊厳に関わる倫理的諸課題を、宗教学の視点から問題提起し、多様性を認め合う平和的な市民社会を構築するための調査・提言の活動を行った。

そのために、今年度の研究事業は

- ① 「日本におけるキリスト教フェミニズム運動史」研究会
- ② 「兵役拒否・平和主義・エキュメニズム」研究会
- ③ 「日本基督同胞教会史」研究会
- ④ 「戦後社会制度とキリスト教」研究会
- ⑤ 「環境・共生・協働のコミュニティ-教会の将来」研究会

以上の各研究会について、オンラインも併用しながら原則対面での活動を再開した。

このほか研修会として、「指導者養成講座」を実施した。

5、 公益事業の必要経費を一部確保するための収益事業

上記公益事業に必要な諸経費を確保するために、効果的に資産を運用し、財団の土地の一部の駐車場運営の合理化を計り、さらに共同住宅敷地として貸与した。

事業報告の附属明細書

2022 年度事業報告には、「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、定款第 11 条(2)に規定する事業報告の附属明細書は作成しない。